

## 【入選】

### ボランティア活動を通して

天草市立五和小学校 6年 宮崎 真之介

2016年4月14日と16日に熊本地震が発生しました。ぼくのすんでいる天草市では、大きな被害はなかったけど、その日からテレビでは、連日、きれつに入った道路やぐしゃぐしゃに崩れた家などがたくさん報道されました。ぼくは、その映像を見て、「ぼくに何かできることはないだろうか」と、ずっと思っていました。自分が住んでいる所よりも、もっと大きな被害を受けた所に少しでも元気を取りもどすことができるように、自分にできることは何でもやろうと思いました。

そんなとき母が、「益城のボランティアセンターに行こうか。」と、声をかけてくれました。ぼくはそのとき、まだ3年生だったので、できることは少なかったけれど、どうしても何かをして一日でも早く復興できるようにと思い、ボランティアセンターに行きました。ボランティアセンターでは、被災地に行つてがれきのつ去などをしに行く人や、活動を終えてボランティアセンターに戻つてきた人たちに凍らせたタオルやキンキンに冷やしたお茶、塩分チャージなどを配る活動をしました。ぼくがお茶などを渡すと、「ありがとう。おかげで元気が出るよ。」などと言つてくれました。ぼくはとてもうれしくなりました。ボランティアセンターには熊本県内からだけでなく、大分や福岡、滋賀などいろんな都道府県からボランティアに来てくれました。

ぼくは、県外から来られたボランティアの方々にパワーをたくさんもらいました。

県外からボランティアに来られた方々の中に、大分県からかけつけてくださった方がいます。名前は尾畠春夫さんです。尾畠さんは80歳のスーパーボランティアと呼ばれています。尾畠さんは軽自動車で熊本に来られ、車の中で生活されていました。食べ物は、あたためるだけのパックに入ったごはんをあたためずに固いまま食べていらっしやいます。また、熊本地震の時だけでなく、西日本ごう雨の時などいろんな災害の時に、被災地に行つてボランティアをされています。尾畠さんは、ぼくにもやさしくしてくださいました。ぼくは尾畠さんはすごいなあと思いました。ぼくは尾畠さんをそん敬しています。

そして、もう一人すばらしい人を知っています。その方も日本全国、災害が発生した場所に行き、ボランティアをされています。だから、ぼくも今後できることがあれば、何でも一生けん命しようと思いました。

ぼくはボランティアを通して、助け合うこと、はげまし合うことの大切さを学びました。「つなぐ」の中でボランティアをされた方々と同じように、被災された方々の気持ちを考えながら、これからの日常生活でも生かしていきたいです。